

# 2021（令和3）年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2022年6月  
洗足うさぎ幼稚園

1 本園の教育目標 「自分で考えて、自分で行動できる」ようになること。

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

感染対策をしながら、1人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育の実践を目指す。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	「教育環境」 感染対策をしながら、出来る限り今までと変わらない園生活を安心して送れるようにすること	B	マスクの着用や手洗い等、基本的な感染対策を、子どもたちが理解して無理なく行えるように伝えた。習慣として定着している。マスク越しのため、子どもとの会話や観察を丁寧に行うようにした。
2	「教育環境」 朝の自由な遊びの時間に、園庭の環境設定を工夫し、子どもたちが自分の好きな遊びを選んで発展させられるようにすること	B	遊びの発見、選択、展開、継続を可能にするような環境設定を検討して、実践した。遊びの現場での教員のかかわり方を反省し、見直した。
3	「特別支援教育」 支援が必要な子ども及び家庭には、1人ひとりに合ったサポートを柔軟に行うこと	C	関係機関、家庭と連携し、職員間で情報を共有するようにした。一人ひとりについて方針を決めて対応した。
4	「教育環境」 英語や水泳など、園の教員以外の講師から指導を受けることで、興味関心を広げること	B	水泳は、水に慣れること、楽しむことを目標に取り組んでいた。英語は、楽しんではいるが、園も関与して内容を改善していく必要がある。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4 総合的な評価結果

評価	理由
B	感染対策をしながら、日常の保育内容はほぼ従来通り行うことができた。遊びについては、職員の意識の変化と共に一定の改善がみられた。特別支援児への対応は、より細やかな方針の作成と、その共有、実践、修正の各段階で改善の余地があった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育環境	「遊び」への理解を深めながら、環境の土台になる園庭全体の改良に向けて研修や話し合いを進める。
2	特別支援	一人ひとりについてきめ細かい方針を作り実践する。クラス運営の中に無理なく位置付けていく。

6 学校関係者評価委員会の評価

- ・保護者のアンケートによると園の重点目標に対しての評価は好意的であり、コロナ禍でも園の努力により子ども達が色々な体験をさせてもらったという感謝の言葉がみられた。日々の保育について努力している様子が感じられる。
- ・バスキャッチなどのアプリや検温サービスなどのITの活用もされており、保護者に便宜をはかっているがこれは時代的にも必要なことである。
- ・保育内では体育遊びなどで子どもの様子をつもつと知りたいという保護者の意見があったが、今後写真や動画などで知らせると、保護者の園への理解が深まるのではないかとと思う。